

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 08年9月 ～輸出産業を中心に減産ペースが加速

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

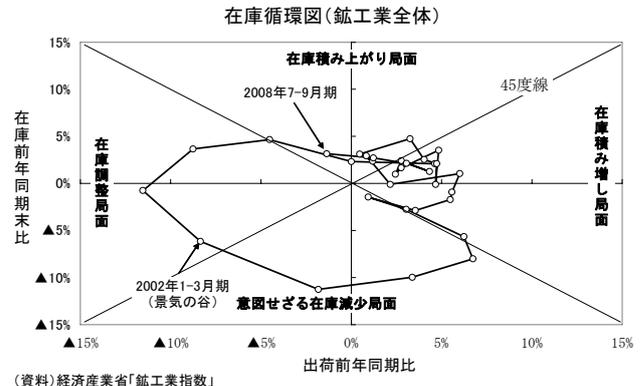
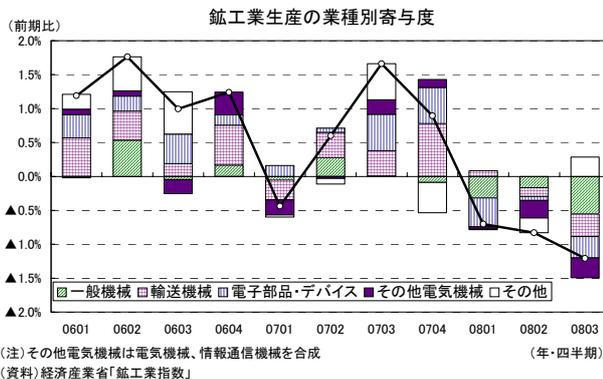
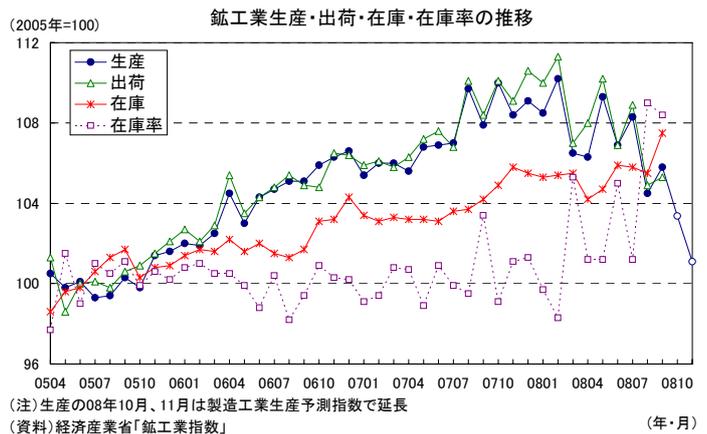
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 7-9月期の生産は前期比▲1.2%

経済産業省が10月29日に公表した鉱工業指数によると、9月の鉱工業生産指数は前月比1.2%と2ヵ月ぶりの上昇となり、市場予想を上回った（ロイター集計：前月比0.5%、当社予想は同▲0.2%）。出荷指数は前月比0.4%と2ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比1.9%と3ヵ月ぶりの上昇となった。8月に前月比7.7%の大幅上昇となった在庫率指数は前月比▲0.6%の小幅低下となった。

9月の生産を業種別に見ると、8月に大きく落ち込んだ輸送機械、一般機械がその反動から高めの伸びとなった（輸送機械～8月：前月比▲9.2%→9月：同3.4%、一般機械～8月：前月比▲6.2%→9月：同5.5%）が、在庫積み上がりから生産調整が続いている情報通信機械が前月比▲5.3%と大幅な低下となった。速報段階で公表される16業種中、8業種が前月比で上昇（8業種が低下）となった。

7-9月期の生産は前期比▲1.2%と3四半期連続の低下となり、4-6月期の同▲0.8%からマイナス幅が拡大した。輸出ウェイトの高い輸送機械、一般機械の2業種で生産全体を1%近く押し下げており、輸出の減速が生産の不振に直結する構図がより鮮明となってきた。



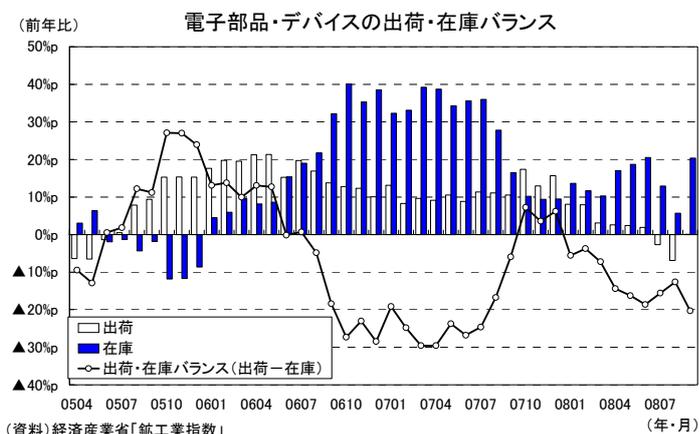
7-9月期の在庫循環図を確認すると、4-6月期に続き「在庫積み上がり局面」に位置しているが、出荷が約6年ぶりに前年比でマイナスとなる一方、在庫の増加幅が拡大したため、「在庫調整局面」に近づく形となった。10-12月期には出荷がさらに落ち込むことにより、「在庫調整局面」に移行し、生産調整が本格化する可能性が高いだろう。

財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は前月比5.3%と4ヵ月ぶりに増加したが、7-9月期では前期比▲5.7%の大幅減少となった。GDPベースの設備投資は、4-6月期は前期比▲0.5%と小幅な減少にとどまったが、7-9月期は減少幅が拡大する可能性が高いだろう。

2. 10-12月期は減産ペースが加速する見込み

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比11.0%の大幅上昇となり、前年比でも20.4%と積み上がり幅が急拡大した（8月：同5.7%）。出荷指数は前月比3.8%と2ヵ月連続で上昇し、前年比でも0.1%（8月：同▲6.9%）と上昇に転じたが、在庫の大幅な積み上がりが響き、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は8月の▲12.6%ポイントから▲20.3%ポイントへと大きく悪化した。

携帯電話、液晶テレビ、デジタルカメラなどIT関連の最終製品が多く含まれる情報通信機械の在庫積み上がりが続いていること（9月：前年比22.4%）に加え、IT関連財の輸出が減速しているため、電子部品・デバイスの在庫調整は進展しにくい状況となっている。



製造工業生産予測指数は、10月が前月比▲2.3%、11月が同▲2.2%となった。業種別には欧米向け輸出の大幅な減少が続いている輸送機械が、2ヵ月連続で大幅な減産計画となっている（10月：前月比▲5.3%、11月：同▲8.5%）。9月の生産指数を10月、11月の予測指数で先延ばし（12月は横ばいと仮定）すると、10-12月期の生産指数は前期比▲4.1%の大幅低下となる。7-9月期までの生産は、景気後退局面としては比較的緩やかな低下にとどまっていたが、10-12月期以降、輸出ウエイトの高い業種を中心に調整ペースが加速する可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。